平成 18 年度委託研究
「生物多様性情報データベース構築フィージビリティ・スタディー（FS）」
調査研究成果報告書（1）

調査研究題目：甲虫と訪花性昆虫類を対象としたデータベースの構築
研究機関名：国立大学法人　九州大学大学院農学研究院
代表研究者：教授　多田内　修

１．作成するデータベースについて

データベースの概要及び特徴	本調査は、GBIF へのデータ提供を前提に、重点分類群の一つである昆虫について、特にデータベース化に対する要求の高い甲虫と訪花性昆虫類を対象に、重要コレクションを擁する複数の研究機関が協同しながら、タイプ標本及び一般標本を対象に画像情報も含む標本データベースを構築した。このような試みは我が国においては初めてであり、今後、国内に保管されている昆虫標本情報のデータベース化を進めて行く上でのモデルケースとなると考えられる。
対象分野	甲虫と訪花性昆虫類

２．データの現在の状況について

データ源	九州大学２名、北海道大学２名、愛媛大学２名の本事業の代表者および分担者が中心となり、それぞれの研究機関が所蔵する標本のデータベース化を進めた。データは GBIF のダーウインコアを採用した。
データの発生・収集場所	代表者及び分担者の所属する九州大学、北海道大学、愛媛大学の３大学の自機関で発生し収集した。

他機関、学会等との連携	データ収集、データ作成については、代表者が組織する昆虫学データベース作成グループ、および JSPS 科研費基盤 A のアジア産昆虫データベース構築グループ（一部）と連携協力体制ができあがった。
データフォーマット	文字および一部画像（タイプ標本のみ）を含む。書式は GBIF のダーウインコアを使用した。
データの保存媒体とデータ件数	（１）データ件数と保存媒体 ・FS 開始前の件数（A） 0 ・FS で作成した件数（B） 約３万件 ・FS 終了時点の件数（A+B） 約３万件 （２）平成 19～22 年度に作成できるデータ件数見込み 年平均４万件。タイプ標本については画像も撮影しているため、入力に時間がかかっているが、一般標本に入れば、画像撮影は行わないので、入力件数は大幅に増加すると思われる。
データのクオリティ・コントロールについて	データのチェックについては、入力データを代表者および分担者がチェックした。

３．データベース化する際の加工内容について

データ・フォーマットやデータの加工内容	ダーウインコアの GBIF 仕様のエクセルファイルに入力した。

４．その他

データベースを公開する上での問題点	特に問題はないと思われる。
FS 終了後の運用体制および問題点	（1）運用体制 データは GBIF に提供するほか、九大のサーバからも公開を予定している。 （2）データの追加・更新体制 予算がつき次第、データの追加入力を行い、毎年更新する。 （3）FS で作成したプロトタイプデータを GBIF 日本ノードに提供する時期 2007 年４月末
作成データを JST で無償利用（または提供）することについての可否	可
その他	

5. 確立できた推進体制

開発責任者	多田内　修、九州大学大学院農学研究院、教授、
参加研究者	吉澤和徳、北海道大学大学院農学研究科、助手 大原昌宏、北海道大学総合博物館、助教授 大林延夫、愛媛大学農学部、教授 酒井雅博、愛媛大学農学部、助教授 小島弘昭、九州大学総合研究博物館、助手

６．FS 後の推進スケジュール（案）

(1) 全体スケジュール及び予算全額

	Ｈ１９	Ｈ２０	Ｈ２１	Ｈ２２
1.データベース基本設計				
2.データベース詳細設計				
3.情報機器の導入				
4.データベースプログラミング				
5.データ作成・入力				
6.試験公開				
7.公開				
予　算　金　額（概算）（千円）	4,000	4,000	4,000	4,000

(2) 平成１９年度実施内容（案）を具体的に記述ください。

１８年度の FS での入力方針と書式に従い、引き続き九州大学、北海道大学、愛媛大学の３大学の所蔵昆虫標本の内、甲虫類および訪花性昆虫類について、入力を継続する。